

自粛疲れの今、2本の映画を観てください！

「痛くない死に方」と「けったいな町医者」

医学博士 長尾和宏

劇映画「痛くない死に方」

10数年前から在宅医療が国策として推進されてきた。高い診療報酬をつけて政策誘導が図られてきた。その結果都市部では沢山の在宅専門クリニックが生まれた。筆者は25年間、在宅医療に従事してきた人間として講演会や書籍やメディアで在宅医療の良さを発信してきた。しかし3年前、私の書籍のファンだと名乗るある読者からこんな手紙を頂いた。「貴方が勧める在宅医療を私の肺がんの父親にやってみてみたが実態は全然違っていた。在宅医に電話しが出ないしすぐに来てくれなかった。結局、父親は苦しみながら死んでいった。貴方の書いている平穏死や在宅なんて嘘だ！在宅医療なんてやるんじゃないかった」と。

ショックだった。責任を感じ、恐る恐るその手紙を書いた娘さんにお会いすることにした。手紙と同様にすく責められた。その女性が依頼した在宅医はいわゆる有名在宅医であった。しかしじっくり話を聞くうちに、在宅医と患者本人と娘さんの想いがまったく噛み合っていないのではと感じた。実は、その対話を文字にしたのがベスト



セラリーになった「痛い在宅医」(ブックマン社)という本である。

1年後、本書を映画化したいという声をかけて頂いた。高橋伴明監督が在宅医療や平穏死に興味を持っている。にわかには信じられなかった。しかしその後、築地本願寺で平穏死の講演をする機会があり、伴明監督と初めにお会いした。そして監督と俳優さんとプロデューサーが尼崎にある私のクリニックに連れて来て一緒に在宅患者さんを訪問した。そこで映画化の話は夢ではないことを悟った。果たして伴明監督自らが脚本を書かれた。読むと平穏死を解説した拙書「痛くない死に方」も交えウィット効いた川柳も添えられていた。

撮影は2019年8月、暑い夏に行われた。主役の痛い在宅医は柄本佑さん、ベテラン在宅医は奥田瑛士さん、患者役は宇崎竜童さん、その奥さんは大谷直子さん、私にクレームを言った娘さんは坂井真紀さん、そして訪問看護師は余貴美子さんという重厚な配役であった。私は原作者としてまた医療監修としてほぼ全編に関わった。もちろん人生初の貴重な体験であった。2020年夏に公開予定であっ



たが、コロナ禍で延期となった。しかし2021年2月20日シネスイッチ銀座で封切られ、全国の映画館で順次上映される予定が決まった。在宅医療のリアル、平穏死とはなにかを知りたい人には是非観て頂きたい。生と死、尊厳死と安楽死、病院医療と在宅医療など僕のライフワークがこの映画に集約されている。

ドキュメンタリー映画「けったいな町医者」

「痛くない死に方」の撮影終了後に、私自身のドキュメンタリー映画の企画を頂いた。町医者の日常に密着したドキュメンタリー映画も撮り対比したい。二つ返事でお断りした。医療は見世物ではないからだ。しかし劇映画とドキュメンタリー映画の2本同時公開という提案には魅かれる点もあり最終的に「とりあえずやってみようか」となった。

「痛くない死に方」で助監督を務めた毛利安孝氏がドキュメンタリー映画の監督として半年近く私の医療現場に密着することになった。密着初日、さっそく在宅看取り現場に遭遇した。振り

さんである。片や劇映画の平穏死、片やドキュメンタリー映画の平穏死。両者は似た世界か、全く違う世界か。ご批判をお待ちしている。

この映画は「痛くない死に方」とほぼ同時期の2月13日(金)にシネスイッチ銀座から全国公開される。既に2本の子告編はネット上で公開されている。是非2本とも観て頂きたいがひとつだけお願いがある。両者を同じ日に観ないで頂きたい。きつと頭の中が混乱するので日を分けて鑑賞して頂ければ幸いです。

「けったいな町医者」になった。これ以上は書かないほうがいいだろう。ありのままの長尾の日常と患者さんの声から医療の原点を感じ取って頂ければ幸いです。まったくの偶然であるが、2本とも最後に登場する患者さんは同年代の肺がん患者

今でもまだ葛藤している。もしかしたら公開されたら私の医者人生は終わるかも、と覚悟している。しかしせっかくなので承諾して頂いたご家族(多くは本人は既に旅立たれている)のご厚意に報いるためにも前向きに協力することを決めた。タイトルは

向くと毛利氏は撮影どころか泣いていた。え？こんな調子で大丈夫？と思ったが結局、粘り強く2ヶ月間、密着してくれた。もちろん患者さんや家族の承諾を得たうえでの撮影だった。果たして仮編集のDVDが送られてきた時、大きな壁にぶち当たった。患者さんやご

家族の映画化の承諾が得られるかどうかという課題があった。私のなかでは、仮に承諾を得られたとしても人の生死に関わるプライベート映像を本場に映画化してもいいものか、医の倫理に反しないか、という葛藤に悩まされた。正直に告白すると、



長尾和宏 (ながおかずひろ)

医療法人社団裕和会理事長、
長尾クリニック院長

1984年 東京医科大学卒業、大阪大学第二内科入局

1991年 医学博士(大阪大学)授与

1995年 兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業、現在に至る

日本慢性期医療協会理事、日本ホスピス在宅ケア研究会理事、日本尊厳死協会副理事長、全国在宅療養支援診療所連絡会世話人、関西国際大学客員教授

【医学博士】

日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、指導医、日本在宅医学学会専門医、日本禁煙学会専門医、日本内科学会認定医、労働衛生コンサルタント

【著書】

『平穏死・10の条件』、『抗がん剤・10のやめどき』、『糖尿病と膵臓がん』など多数。『痛くない死に方』と『痛い在宅医』は、映画化され、2020年夏公開予定。近著『小説 安楽死特区』も即重版し、アマゾン1位。

月刊 世界の視点で情報を発信する総合誌

公論



発行・株式会社財界通信社 令和3年2月1日発行 毎月1回1日発行 第54巻2号
昭和47年11月10日第三種郵便物認可

2 2021
February



日本の底力を発揮し コロナ禍の世界を先導せよ

本誌主幹 大中吉一

リレー
対談

株式会社京都吉兆
代表取締役社長

福聚山 慈眼寺 住職
大峯千日回峰行 大行満大阿闍梨

徳岡邦夫氏 VS 塩沼亮潤氏

大峯千日回峰行は
純粹に自らが願い出た過酷な修行
宗教はあくまでも道しるべ
大事なのはそれを実践してこそ



TOPインタビュー⑦

株式会社日本M&Aセンター
代表取締役社長

三宅卓氏

TOPインタビュー⑧

タカラスタンダード株式会社
代表取締役社長

渡辺岳夫氏

聞き手 本誌主幹 大中吉一

特別寄稿

オリンピックの前に知っておこう

〝日本の素晴らしさ〟①

株式会社 人間と科学の研究所 所長 飛岡健氏